



体を動かす楽しさを、存分に味わう幼児期を！

園長 和島 千佳子

9月半ばから、お隣の青柳小学校体育館を、学校の給食の時間帯にお借りしています。

園児は昼食を済ませてから、体育館に行きます。5歳児ゆり組は、行くとまず裸足になるのが日課のようになっていました。そして、裸足でひとしきり、広い体育館を縦横無尽に駆け回ります。ランニングのように周回する幼児、友達や先生と追いかっこをする幼児、ひたすら走り回る幼児など、それぞれのやり方で走り、疲れると自分のペースで一休みして、また駆け出します。繰り返しの中で、ぶつからないように身をかかわるのが巧みになったり、足の運びがダイナミックになったりしています。

そんな年長組の姿を園庭から垣間見ていた4歳児もも組も、体育館に行くようになりました。日頃からしている体操やハイハイやクマ歩きなどの動きを先生や友達と一緒にします。それから、ゆり組のように思い思いに走り回ります。あるとき、3人ずつ順番に「よういどん！」とかけっこをしました。懸命に走り、友達を応援します。「もっと走りたい」「ここ、楽しい」「もう一回やりたい！」という声が聞かれました。

場所を知り、場所に慣れ好感をもち、そこで行うことに面白さを感じ、繰り返し走りながら動きが滑らかになり、スピードも増しているようです。そして「もっとやりたい、あんなふうにやりたい」という思いを膨らませている、何とも楽しげな子どもたちです。年長ゆり組は、リングバトンを持って折り返しリレーをするようになり、エンドレスリレーをたくさん楽しみ、徐々にチームの対戦への意識が出てきました。

また、5月に校庭で見た小学校運動会の印象も強く、「小学生がしていたのを私たちもやろうね」と、ダンシング玉入れを園でしています。子どもたちの踊る姿はとてもチャーミング！見ていて思わず笑みがこぼれます。園生活の中でも「チェッチェッコリ、チェッコリサ♪」とロズさみながら降園の支度をし、いつの間にか大合唱になっているときもあります。それを聞いていると、私も楽しい気持ちになります。

すぐ隣に小学校があることから、このように影響を受けて、幼児の意欲的な姿が引き出されています。この環境に感謝です。

折しも、運動遊びのイベントに参加し、お茶の水女子大学の水村真由美教授の話を伺いました。

「幼児期に、運動が好き、楽しいという経験をたくさん積むことは、その後の人生で体験する多様な動きの中から、自分の好きな運動を見つけられる基礎を育むことに他ならない。一生を通じた健やかな身体の基礎は子どもの頃の運動好きから始まると考えている。」という内容に、子どもたちの姿が重なりました。

「そのためには、子どもの周りにいる大人たちの創意工夫、いわゆる「手間」が、よりいっそう求められる時代になっているのだとも感じている。」※

とのお話を聞きながら、私は、日々の保育やその計画・準備をする先生たちの姿や、幼稚園公開やワクワクデーなどで園児と一緒に楽しそうに体を動かしてくださる保護者の皆様の姿を思い浮かべました。

※実践ファイル 幼児の健やかな身体に向けた東京都文京区での取り組み：活発に運動する環境づくりから運動好きの子どもを増やす（幼児の教育117巻4号 フレーベル館 2018年）より引用

このごろは、先生の働きかけからだんだんに、10月7日に小学校体育館で行う「運動会」のことをイメージするようになってきている子どもたちです。勝って嬉しい、負けて悔しい、うまくいかドキドキする、大勢の人が集まることに舞い上がる…など、様々な感情を抱くでしょう。子どもたちが「体を動かすって楽しい、面白い！」という気持ちを自分の中に育む、大切な幼児期を過ごしていることを、私たち大人が心にとめ、その姿を受け止めていきたいと思えます。

子どもも、大人も、楽しく体を動かしましょう！

小学校の
体育館で
よういどん！



みんなで
ダンシング玉入れ